

日本自閉症スペクトラム学会  
第9回研究大会プログラム

自閉症の人の社会参加  
～地域で幸せに暮らすために～

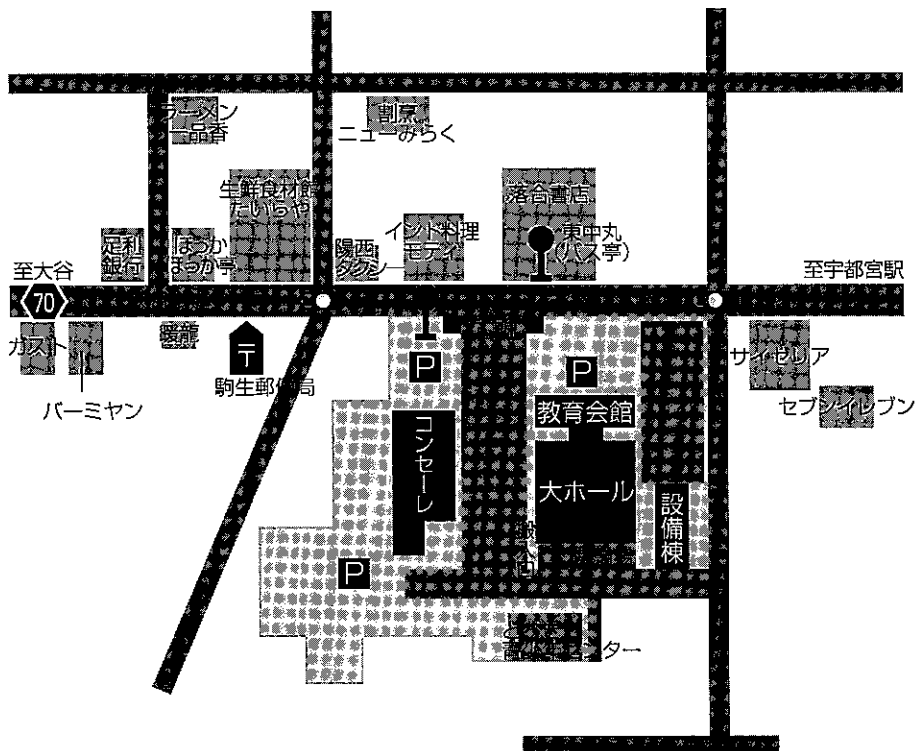
2010年9月11日(土)・12日(日)  
会場：栃木県教育会館・コンセーレ



宇都宮大学  
UTSUNOMIYA UNIVERSITY

# 大会会場「栃木県教育会館・コンセーレ」

## 1. JR宇都宮駅までのアクセス方法



〒320-0066 栃木県宇都宮市駒生1丁目1番6号

TEL 028-621-7177 FAX 028-621-0761

### 〈交通のご案内〉

#### ■東北自動車道

- 鹿沼ICより9.5km
- 宇都宮ICより9.0km

## 2. JR宇都宮駅から学会会場までのアクセス方法

#### ■JR宇都宮駅（路線バス 教育会館・コンセーレまで4.7km）

- 関東バス「作新学院駒生」行き（⑥⑦番のりば）東中丸バス停下車（コンセーレ前）

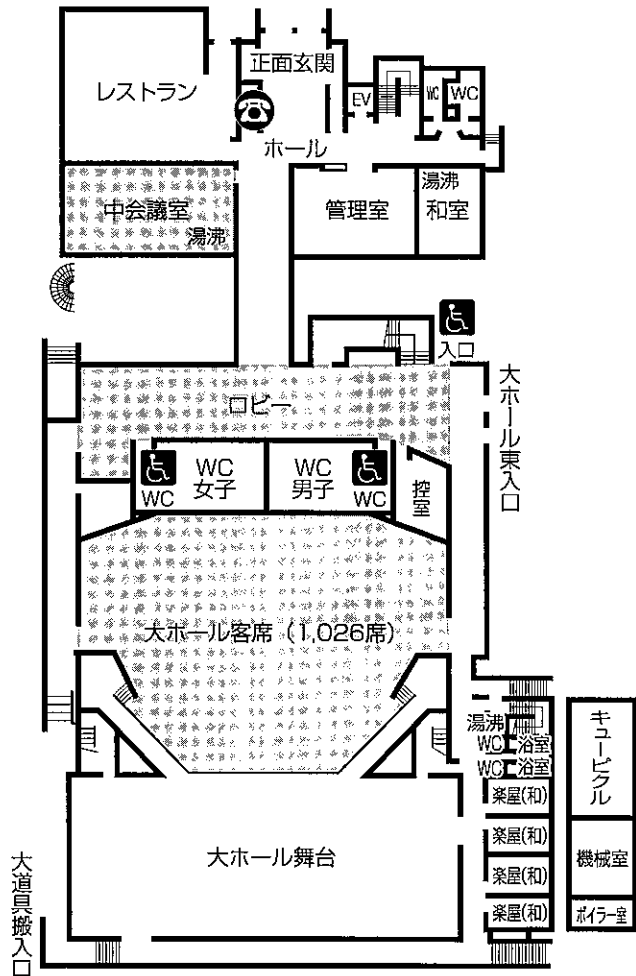
#### ■交通機関料金

- バス（JR宇都宮駅～東中丸） 200円  
（東武宇都宮駅～東中丸） 200円
- タクシー（JR宇都宮駅～コンセーレ） 約1,700円  
（東武宇都宮駅～コンセーレ） 約1,200円

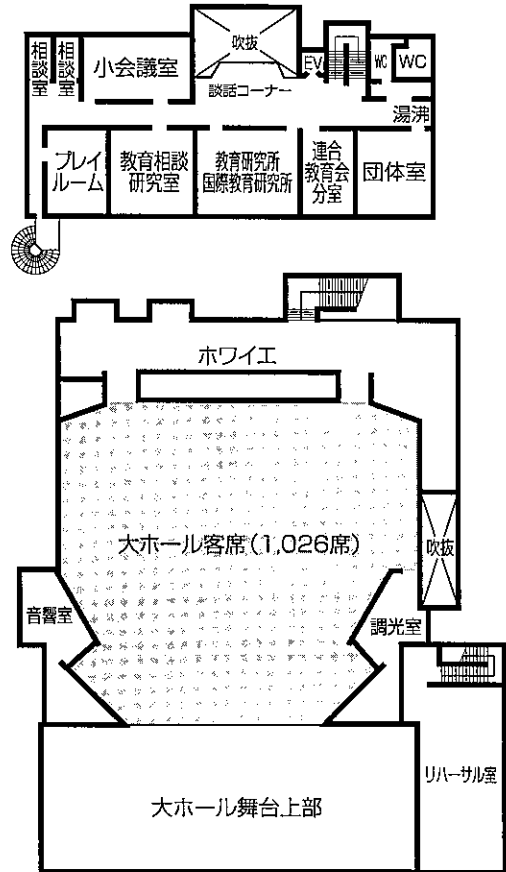
# 栃木県教育会館

## 栃木県教育会館 施設配置図

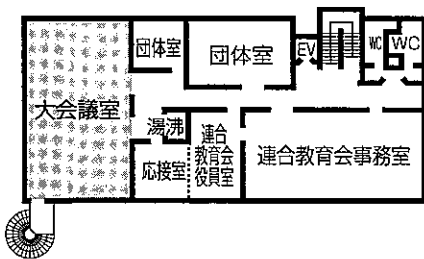
1階



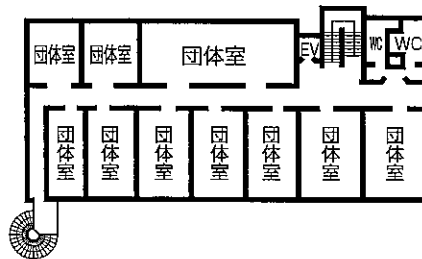
2階



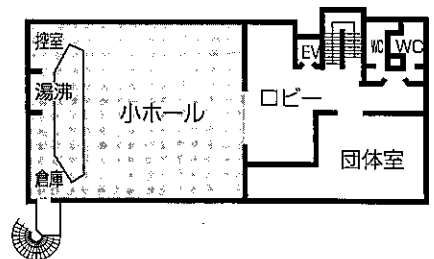
3階



4階

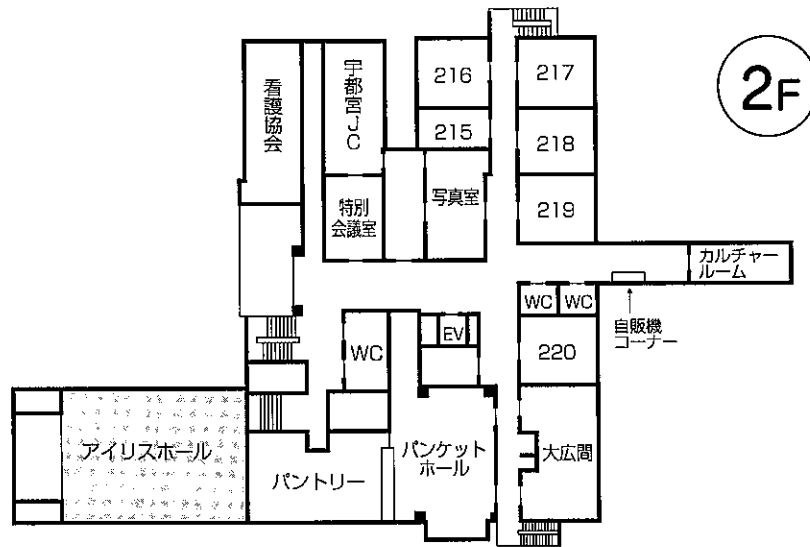
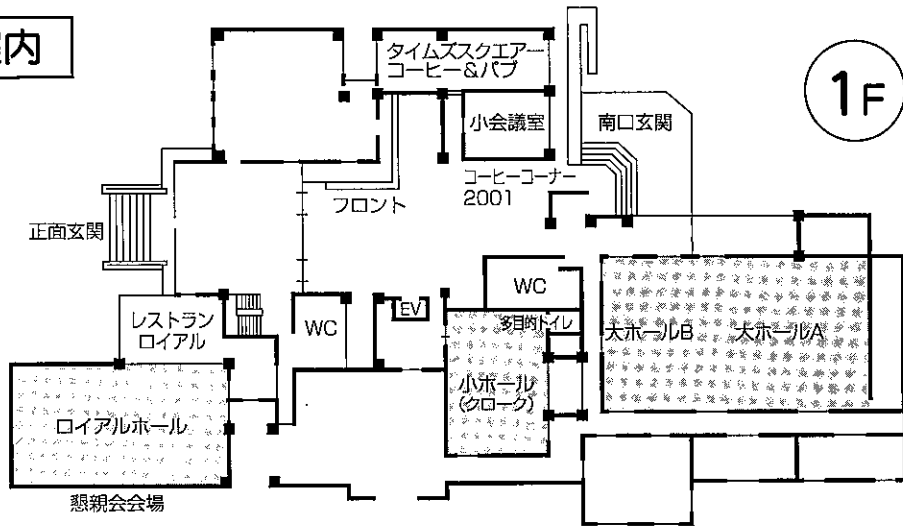


5階

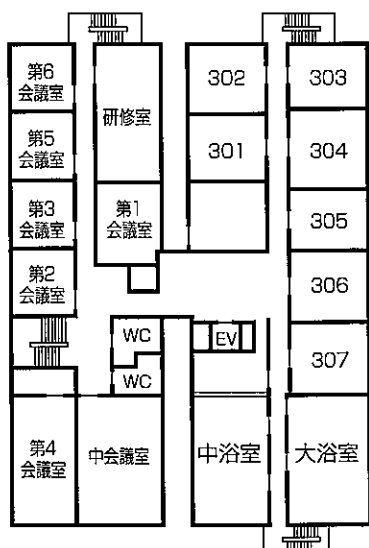


# コンセーレ

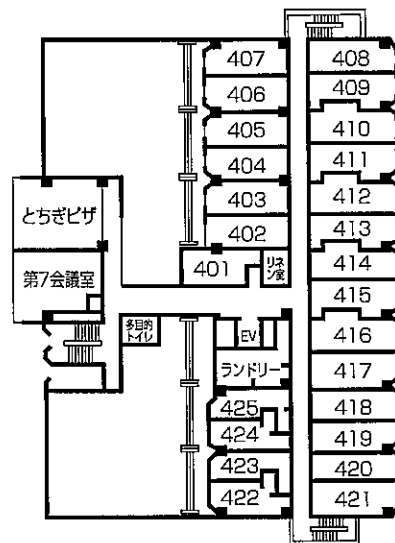
## 各階の案内



## 3F



## 4F



# 大会参加者へのご案内

## 1. 総会

大会初日9月11日(土)の9:50より栃木県教育会館大ホールにて総会を開催しますので、学会会員の皆様はご出席下さい。

## 2. 諸費用

会員参加費	予約 当日	6,000円 7,000円	連名発表者・自主シンポジウム関与者は必ず前納してください。
臨時会員参加費			会員でない方は予約できませんので、当日受付で納入してください。
2日間：一般		7,000円	
学生		3,000円	
1日のみ：一般		3,500円	
学生		1,500円	
懇親会費		5,000円	
自主シンポジウム企画費		3,000円	

なお、連名発表、自主シンポジウムで話題提供、指定討論をされる臨時会員の方も参加費が必要となります。

## 3. 参加証について

予約参加の方(参加予約票のハガキをお持ちの方)：9月11日(土)・12日(日)に1日ごとに参加証を発行いたします。教育会館1階の受付でご用意しておきますので、1日目は17:00以降、2日目は14:00以降に、忘れないようにお持ち帰り下さい。取り忘れによる再発行や郵送はいたしませんのでご了承下さい。

学会員で当日参加の方(参加予約票をお持ちでない方)：9月11日(土)・12日(日)に1日ごとに参加証発行申請をして下さい。発行申請用紙を教育会館1階の受付に用意しておきますので、忘れないように1日ずつ申請して下さい。

## 4. 荷物預かり・昼食・託児・宿泊の手配について

クロークは、コンサーレ小ホールに設けてあります。9月11日(土)は9:30から18:00まで、12日(日)は9:30から16:00までご利用いただけます。貴重品はお預かりできません。両日とも必ず終了時間までにクロークの荷物をお引き取りください。昼食に関しては、近くにレストラン、コンビニエンスストアがあります。会場内で昼食をとることは可能ですが、ゴミは各自お持ち帰りください。なお、誠に恐縮ですが託児・宿泊の手配はしておりませんので、ご了承ください。

## 5. 研究発表

### (1) 研究発表の資格

- ① 筆頭発表者および連名発表者は、会員に限ります。会員は2010年度の年会費の納入を完了してください。会員でない方は入会手続きを済ませ会員の資格を取得してください。

② 筆頭発表者は参加費の支払いを完了してください。連名発表者も参加費の払い込みが必要です。

③ 筆頭発表者での研究発表は1人1題に限ります。連名発表者はその限りではありません。

## (2) 発表形式

### 【口頭発表】

① 発表時間は1題につき15分、質疑応答5分、計20分です。12分で1鈴、15分で2鈴（発表終了）、20分で3鈴が鳴ります。発表時間を厳守するようにしてください。

② 使用できる機器は、パソコン、プロジェクターです。

③ 用意するパソコンは、OSがwindows、ソフトがパワーポイントになります。パソコンを使用する方は、データファイルをUSBメモリに入れてご持参ください。

④ セッション開始前に、データを会場のパソコンに移し、動作確認をしていただきます。責任発表者は発表15分前に各教室に集合するようにお願いします。

### 【ポスター発表】

① ポスター掲示時間は11日(土)13:00~18:00です。12:00~13:00の間にポスターを掲示してください。発表者の在籍時間は15:00~16:00です。この時間はポスターが貼ってある場所に必ず在籍して、質疑・討論に応じてください。

② 会場に掲示用ボードを用意します。ボードのサイズは、高さ180cm×幅90cmです。ボード内に収まるようにポスターを作成してください。上部に「題目」「氏名」「所属」をお書きください。画鋏を会場にご用意いたします。18:00になりましたら、ポスターを必ず撤去してください。18:30を過ぎても掲示してあるポスターは大会本部で処分いたします。

## 6. 自主シンポジウム

### (1) 企画者・司会者の資格

① 自主シンポジウムの企画者・司会者は、2010年4月現在で学会会員に限ります。話題提供者と指定討論者は、臨時会員であっても差し支えありません。

② 自主シンポジウムの企画者・司会者は、大会参加費および自主シンポジウム企画費の支払いを必ず事前に完了してください。自主シンポジウムに関与する臨時会員は、大会参加費等を当日受付にお支払いください。

③ 自主シンポジウムに関与する会員は、他の自主シンポジウムに重複して参加することはできません。

### (2) 発表形式

① 自主シンポジウムの時間は全体で2時間です。運営は企画者に一任されます。

② 使用できる機器およびソフトは、口頭発表と同じです。

### ※大会当日の印刷物の取り扱いについて

資料を配布される方は必要部数をあらかじめコピーしてお持ちください。配布も各自でお願いします。当日の資料印刷はできません。緊急の場合は、近辺のコンビニのコピー機をご利用ください。

# 大会日程と会場

## 第1日 9月11日(土)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
教育会館1階	9:30~17:30 受付										
コンセーレ (小ホール)	9:30~18:00 クローク										
教育会館 (大ホール)	9:50 総会	10:30~12:00 大会記念講演					13:00~15:00 自主シンポジウム①	15:30~17:30 学会企画 シンポジウム			
教育会館 (小ホール)							13:00~15:00 自主シンポジウム②	15:30~17:30 自主シンポジウム③			
教育会館 (大会議室)							13:00~15:00 自主シンポジウム④	15:30~17:30 自主シンポジウム⑤			
コンセーレ (大ホール)							13:00~15:00 自主シンポジウム⑥	15:30~17:30 自主シンポジウム⑦			
コンセーレ (アイリスホール)							13:00~15:00 自主シンポジウム⑧	15:30~17:30 口頭発表①			
教育会館 (ロビー)	13:00~17:30 ポスター発表(在籍時間15:00~16:00)										
教育会館(中会議室) 事務局	12:00~13:00 役員会 資格認定委員会										

## 第2日 9月12日(日)

	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
教育会館1階	9:30~15:00 受付										
コンセーレ (小ホール)	9:30~16:00 クローク										
教育会館 (大ホール)	10:30~12:00 大会特別講演				13:00~15:00 (公開講座) 大会企画シンポジウム		15:10~15:30 閉会式				
教育会館 (小ホール)	10:00~12:00 口頭発表②				13:00~15:00 口頭発表③						
コンセーレ (大ホール)	10:00~12:00 口頭発表④				13:00~15:00 口頭発表⑤						

大会初日の11日の午後6時から懇親会を開きますので、奮ってご参加のほどお待ちしております。

●総 会【11日(土) 9：50～10：20】

会 場：教育会館 大ホール

●大会記念講演【11日(土) 10：30～12：00】

会 場：教育会館 大ホール

テーマ：自閉症の人が地域で幸せに暮らすために

講演者：佐々木正美（川崎医療福祉大学特任教授、ノースカロライナ大学臨床教授）

●大会特別講演【12日(日) 10：30～12：00】

会 場：教育会館 大ホール

テーマ：自閉症支援のあるべき姿を目指して－何が自閉症支援を阻むか？

講演者：内山登紀夫（福島大学大学院教授）



◆学会企画シンポジウム【11日(土) 15:30～17:30】

会場：教育会館 大ホール

テーマ：「脳科学で自閉症は克服できるのか」

企画・司会者：市川 宏伸（東京都立小児総合医療センター）

シンポジスト：宮尾 益知（国立成育医療研究センター）

藤岡 宏（今治・つばさ発達クリニック）

辻井 正次（中京大学）

指定討論者：園山 繁樹（筑波大学）

◆大会企画シンポジウム【12日(日) 13:00～15:00】 公開講座

会場：教育会館 大ホール

テーマ：自閉症の人の社会参加 ～地域で幸せに暮らすために～

企画・司会者：梅永 雄二（宇都宮大学教育学部）

シンポジスト：歯医者にかかれる 高野 幸子（デイハウスぼこあぼこ アットホームぴちかーと）

買い物ができる 熊本 葉一（岩手県一関市ええ街作り隊）

働ける 関原 深（株式会社インサイト）

余暇を楽しめる 大圖 香里（横浜やまびこの里 ワークアシストやまびこ）

指定討論者：志賀 利一（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園）

## 自主シンポジウム①【11日(土) 13:00～15:00】

会 場：教育会館 大ホール

テ ー マ：機能の高い自閉症スペクトラムの人のコミュニケーション支援

ーソーシャル・ストーリーズ™とコミック会話の効果ー

企 画 者：服巻 智子（それいゆライフサポートセンター&教育コンサルタント）

司 会 者：服巻 智子（それいゆライフサポートセンター&教育コンサルタント）

話題提供者：山田 理恵（つつじヶ丘こどもクリニック発達外来）

佐々木聡子（栃木県壬生町立壬生小学校）

貞包由紀子（それいゆライフサポートセンター佐賀地域センター相談支援部）

## 自主シンポジウム②【11日(土) 13:00～15:00】

会 場：教育会館 小ホール

テ ー マ：自閉症の子どもの教室での教科指導② ー算数・数学ー

企 画 者：柘植 雅義（国立特別支援教育総合研究所）

大南 英明（帝京大学）

司 会 者：柘植 雅義（国立特別支援教育総合研究所）

大南 英明（帝京大学）

話題提供者：伊藤 一美（星槎大学）

星井 純子（東京都三鷹市立第七小学校）

鳴海 正弥（京都市立四条中学校）

指定討論者：園山 繁樹（筑波大学）

### 自主シンポジウム③【11日(土) 15:30～17:30】

会 場：教育会館 小ホール

テ ー マ：小中学校におけるASD児への支援の現状

企 画 者：富永由紀子（明星大学大学院）

司 会 者：富永由紀子（明星大学大学院）

話題提供者：杉山 敬子（日光地区特別支援研究会）

吉田恵美子（県南地区特別支援研究会）

篠原 久恵（日光地区特別支援研究会）

青柳都己代（県南地区特別支援研究会）

吉川 修司（日光地区特別支援研究会）

指定討論者：小林 英二（鹿沼市保健福祉課）

計野浩一郎（武蔵野東教育センター）

### 自主シンポジウム④【11日(土) 13:00～15:00】

会 場：教育会館 大会議室

テ ー マ：TTAPを活用した発達障害児への就労支援

企 画 者：清水 浩（宇都宮大学附属特別支援学校）

司 会 者：清水 浩（宇都宮大学附属特別支援学校）

話題提供者：清水 浩（宇都宮大学附属特別支援学校）

佐藤 悦子（宇都宮大学附属特別支援学校）

片柳 優美（宇都宮大学大学院教育学研究科）

指定討論者：梅永 雄二（宇都宮大学）

## 自主シンポジウム⑤【11日(土) 15:30～17:30】

会 場：教育会館 大会議室

テ ー マ：高機能自閉症スペクトラム障害者に対するトランジッション・リエゾン支援

企 画 者：西村優紀美（富山大学）

司 会 者：西村優紀美（富山大学）

話題提供者：清水 聡（福井県立大学）

西村優紀美（富山大学）

山本 仁（金沢大学学校教育学類附属特別支援学校）

吉永 崇史（富山大学）

指定討論者：中井 昭夫（福井大学）

## 自主シンポジウム⑥【11日(土) 13:00～15:00】

会 場：コンセーレ 大ホール

テ ー マ：地域生活に根ざし地域生活に生きる教科学習

企 画 者：前田 宣子（富山県立しらとり支援学校）

司 会 者：前田 宣子（富山県立しらとり支援学校）

話題提供者：野原 秀年（富山大学人間発達科学部附属特別支援学校）

北川 雅恵（富山県立富山総合支援学校）

西田 弥生（富山県教育委員会東部教育事務所）

指定討論者：寺山千代子（星槎大学）

水内 豊和（富山大学）

## 自主シンポジウム⑦【11日(土) 15:30～17:30】

会 場：コンセーレ 大ホール

テ ー マ：広汎性発達障がい者への社会での支援

企 画 者：高木 徳子（京都女子大学OG発達支援研究所）

話題提供者：西野 公（社会福祉法人檜の里 ワークセンターひのき）

森 博文（社会福祉法人山城福社会 志津川福祉の園）

池田 顕吾（やまと更生センター）

指定討論者：近藤 裕彦（社会福祉法人檜の里 あさけ学園）

楠 峰光（社会福祉法人玄洋会 昭和学園）

## 自主シンポジウム⑧【11日(土) 13:00～15:00】

会 場：コンセーレ アイリスホール

テ ー マ：PECSのよりよい指導環境および指導方法を求めて

企画者・司会者：宮崎 光明（兵庫県立こやの里特別支援学校）

話題提供者：篠原 大一（愛知県立豊川養護学校）

松本 拓也（栃木県立足利中央特別支援学校）

宮崎 光明（兵庫県立こやの里特別支援学校）

指定討論者：服巻 繁（ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン株式会社）

## 研究発表

口頭発表①【11日(土) 15:30~17:30】 コンセーレ アイリスホール

座長：小林 重雄・久賀谷 洋

1. 自閉症幼児のコミュニケーションの機能化をめざした指導

○新川 朋子（四日市大学環境情報学部）

小林 重雄（名古屋経済大学大学院人間生活科学研究科）

2. ポーテージプログラムを用いた自閉症スペクトラム障害児の早期療育

○落合 登（NPO法人日本ポーテージ協会新潟チューリップ支部）

3. ブランコの現象学的考察－自閉症児の遊びに関する研究－

○眞次 浩司（福岡大学大学院人文科学研究科）

4. 子どもと取り組むソーシャルスキルアルバム

○久賀谷 洋（京都市児童福祉センター）

門 眞一郎（京都市児童福祉センター）

岩井栄一郎（京都市発達障害者支援センター）

5. 重度自閉症児のセルフケアの支援－食事への支援を通して－

○市川 友美（東京都立小児総合医療センター）

口頭発表②【12日(日) 10:00~12:00】 教育会館 小ホール

座 長：山口千鶴子・鈴木美枝子

1. 自閉症児・者がいる学校は皆が暮らしやすい学校になれる  
○山口千鶴子（川崎市立住吉中学校）
2. 人との“やりとり”する力を育むための授業の工夫  
○鈴木美枝子（静岡県立静岡北特別支援学校）
3. 小中支援の実際—個別の指導計画に基づいて—  
○田中 理子（埼玉県立上尾特別支援学校）
4. 広汎性発達障害児の登校しぶりの改善—通級指導教室と通常の学級との連携をめぐって—  
○磯野 久美（川崎市立久本小学校）
5. 高機能広汎性発達障害と学習困難PartⅢ  
○山田 充（堺市立日置荘小学校）  
半田 順子（神戸市立菅の台保育所）

1. 成人期に診断された自閉症スペクトラムを持つ方々の検討 (第2報)

○高橋 和俊 (おしま地域療育センター)

2. 高機能自閉症スペクトラム成人のサロン活動②

○清水 聡 (福井県立大学学術教養センター)

3. 高機能自閉症とアスペルガー症候群の方と職場の戦力とする秘訣

ー山梨県における障害者雇用のビジネスモデル検討ー

○福本 康之 (山梨県教育委員会教育庁総務課)

4. 発達障害者支援センターにおける成人への支援ー1. ソーシャルクラブのとりくみよりー

○澤 月子 (京都市発達障害者支援センターかがやき)

岩井栄一郎 (京都市発達障害者支援センターかがやき)

村松 陽子 (京都市児童福祉センター)

5. 発達障害者支援センターにおける成人への支援2ー就労支援・就労準備プログラムよりー

○岩井栄一郎 (京都市発達障害者支援センターかがやき)

澤 月子 (京都市発達障害者支援センターかがやき)

村松 陽子 (京都市児童福祉センター)

6. 自閉症の青年期

ー自発的なコミュニケーション手段の獲得によるプロンプト依存からの脱却ー

○桧尾めぐみ (NPO法人東大阪発達障害支援の会ピュア)

門 眞一郎 (京都市児童福祉センター)



口頭発表④【12日(日) 10:30~12:00】 コンセーレ 大ホール

座長：宮澤 賢二・松田幸都枝

1. 同一性のこだわりの治療

○白石 勸（八王子市長房学童）

2. 応用行動分析（ABA）を用いた実践的な指導

○松田幸都枝（チルドレン・センター）

鎌谷 彩子（チルドレン・センター）

3. 自閉症へのBAT療法（Bio-Active Therapy）の有効性について（第二報）

○高橋 博樹（医療法人社団長白会タニクリニック）

谷 美智士（医療法人社団長白会タニクリニック）

4. PECSによる言語獲得について

○宮澤 賢二（兵庫県立いなみ野特別支援学校）

5. TTAPのフォーマルセッションによって引き起こされる支援者の変化

—福祉施設におけるエスノグラフィを通して—

○加藤 健生（川崎医療福祉大学大学院）

佐々木正美（川崎医療福祉大学大学院）

口頭発表⑤【12日(日) 13:00～15:00】 コンセーレ 大ホール

座長：松井 宏昭・立松 英子

1. 自閉症児の「国際コミュニケーションの素地」を育む外国（英語）活動の実践研究  
○小林 省三（東京都江戸川区立二之江小学校）
2. 柏市における発達障害者支援の取り組み 4. -発達障害サポーター研修会の参加者ニーズ-  
○横内 郁子（特定非営利活動法人自閉症サポートセンター）  
松井 宏昭（特定非営利活動法人自閉症サポートセンター）
3. 日本の自閉症支援の現状と今後の展開-支援者の「？」が「！」になるように-  
○上村 裕章（行動・教育コンサルティング）  
吉野智富美（行動・教育コンサルティング）
4. 発達障害者の福祉用具を給付対象として取り組む市町村  
○松井 宏昭（特定非営利活動法人自閉症サポートセンター）  
増澤 高志（生活工房）
5. 鳥の絵課題の下位分類について（Ⅱ）-視空間認知の障害と「気になる行動」-  
○立松 英子（東京福祉大学社会福祉学部）  
太田 昌孝（心の発達研究所）

- P-01. 学校との連携によるライフスキル学習への取り組み  
○岩田 昌子 (北海道発達障がい者支援センター あおいそら)  
榎原永都子 (函館市立亀田小学校)
- P-02. 専門機関との連携によるライフスキル教育の展開  
○榎原永都子 (函館市立亀田小学校)  
岩田 昌子 (北海道発達障がい者支援センター あおいそら)
- P-03. 知的障害のある自閉症スペクトラム生徒の就労に向けた進路指導  
— 個別移行支援計画におけるTTAPの活用—  
○片柳 優美 (宇都宮大学大学院教育学研究科)  
梅永 雄二 (宇都宮大学大学院教育学研究科)
- P-04. 自閉症児に対するコミュニケーション指導  
— P E C Sを用いたコミュニケーションスキルの支援—  
○松本 拓也 (栃木県立足利中央特別支援学校)  
梅永 雄二 (宇都宮大学大学院教育学研究科)
- P-05. 高校教育における理解と支援 —通常学級での生徒間のコミュニケーション支援—  
○三浦 大 (秋田クラーク高等学院)  
小野 広道 (秋田クラーク高等学院)  
田中ひと美 (秋田クラーク高等学院)
- P-06. ある知的障害者施設における自閉症スペクトラム者の年齢分布と生活習慣病の実態調査  
○柴田 清 (春日井市保健センター)
- P-07. 支援ノート (すこやかノート) を通しての親支援活動  
○清吾 雅江 (五條市保健福祉センター)
- P-08. 幼稚園における保育者が考える特別支援教育の課題  
— 福島県内の幼稚園を対象とした質問紙調査の結果分析—  
○朴 香花 (福島県郡山市みらい幼稚園)  
鶴巻 正子 (福島大学人間発達文化学類)
- P-09. 社会的能力を高めるために  
○浅川よし子 (山梨県自閉症協会・社会福祉法人 ぶどうの里)

- P-10. 自閉症者の職場実習におけるセルフ・マネジメント・スキルの獲得  
 -作業チェック表を用いた自律的な作業遂行を目指して-  
 ○松田光一郎（社会福祉法人 北摂杉の子会）
- P-11. 母子通園教室における自立課題の実践 -着席時間に着目して-  
 ○前野みさお（愛知県東郷町母子通園カンガルー教室）
- P-12. 進路指導からキャリア教育を目指して -職場体験実習等を通して-  
 ○川井田洋一（兵庫県立視覚特別支援学校）
- P-13. 自閉症患者に対する障害者歯科での長期管理の効果  
 ○大西 智之（大阪府立急性期総合医療センター障がい者歯科）  
 楽木 正実（大阪府立急性期総合医療センター障がい者歯科）
- P-14. 中国における自閉症児童の教育現状と課題  
 ○呂 曉彤（帝京科学大学子ども学部児童教育学科）  
 太田 昌孝（心の発達研究所）
- P-15. アスペルガー症候群の特徴を示すマンガキャラクターの考察  
 -『CLANNAD-クラナド-』の天才少女「一ノ瀬ことみ」から-  
 ○中川 祐志（芦屋大学大学院教育学研究科）
- P-16. 教師のチェックリストによる広汎性発達障害児の自尊感情  
 ○古賀 裕美（慶應義塾大学大学院社会学研究科）
- P-17. 発達障害のある家族をもつきょうだいの悩みに関する一考察  
 -きょうだい会活動におけるアンケート調査から-  
 ○加藤 真優（町田市障がい者就労・生活支援センターりんく）  
 梅永 雄二（宇都宮大学大学院教育学研究科）
- P-18. アスペルガー症候群・高機能自閉症における日常生活の行動に関する評価  
 ○大野留美（東京福祉大学大学院心理学研究科）
- P-19. 自閉症児に対するPECSと動作模倣の訓練を同時に行う指導方法の検討  
 ○宮崎 光明（兵庫県立こやの里特別支援学校）
- P-20. 自閉症スペクトラム児への具体的指導-適切な行動・スキルの獲得へ向けて-  
 ○山藤 由紀（明治安田こころの健康財団子ども療育相談センター）  
 新井 利明（明治安田こころの健康財団子ども療育相談センター）
- P-21. 連携による療育機会の増加  
 ○衣笠 広美（筑波大学大学院人間総合科学研究科）  
 園山 繁樹（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

- P-22. 発達障害のある児童のための「りゅーだい土曜教室」の取り組み  
○中 龍馬（琉球大学大学院教育学研究科）  
神園 幸郎（琉球大学大学院教育学研究科）
- P-23. 不登校状態の児童への対応  
○高橋 順治（奈良県生駒市立生駒小学校）
- P-24. 高等学校での生活行動をもとにしたPARS現在評定  
○蔵本信比古（北海道情報大学経営情報学部医療情報学科）
- P-25. 高校を中心としたネットワーク構築  
○志村 秀穂（岩谷学園高等専修学校）
- P-26. 療育施設スタッフ全員を対象としたTEACCHモデルの実習型研修  
○村松 陽子（京都市児童福祉センター）  
門 眞一郎（京都市児童福祉センター）  
澤 月子（京都市発達障害者支援センターかがやき）  
久賀谷 洋（京都市児童福祉センター）
- P-27. 読み書きが苦手な子どもへの新出漢字の指導法  
○杉本 陽子（飯塚市立飯塚小学校）  
藤春 公子（大任町立大任小学校）

## 第9回研究大会準備委員会

準備委員長 (大会会長) 梅 永 雄 二 (宇都宮大学)  
事務局 長 加 藤 豊 (栃木県立那須特別支援学校)

大会準備委員

松 本 秀 彦 (作新学院大学)
石 川 由美子 (聖学院大学)
磯 弘 子 (宇都宮市教育センター)
三 塚 文 枝 (栃木県立今市特別支援学校)
間 宵 克 弘 (栃木県立富屋特別支援学校)
清 水 浩 (宇都宮大学附属特別支援学校)
鈴 木 智 洋 (栃木県立国分寺特別支援学校)
宮 下 陽 子 (栃木県自閉症協会)
植 村 文 恵 (栃木県自閉症協会)
片 柳 優 美 (宇都宮大学大学院教育学研究科)

### 大会本部

宇都宮市峰町350

宇都宮大学教育学部

TEL : 028-649-5349 (梅永)

E-Mail : umenaga@cc.utsunomiya-u.ac.jp



NPO法人 日本自閉症スペクトラム支援協会

# 日本自閉症スペクトラム学会

The Japanese Academy of Autistic Spectrum

日本自閉症スペクトラム学会事務局

〒273-0866 船橋市夏見台3-15-18 TEL:047-430-2010 FAX:047-430-2019

E-mail:postmaster@autistic-spectrum.jp <http://www.autistic-spectrum.jp/>

日本自閉症スペクトラム学会  
第9回研究大会賛助団体ご芳名（敬称略）

— 後 援 —

国立大学法人 宇都宮大学

栃木県保健福祉部障害福祉課  
栃木県教育委員会  
栃木県発達障害者支援センター  
(栃木県とちぎりハビリテーションセンター)  
宇都宮市  
宇都宮市教育委員会  
社会福祉法人栃木県社会福祉協議会  
宇都宮市社会福祉協議会  
社団法人日本自閉症協会  
栃木県自閉症協会  
LD等発達障がい児者親の会「ゆずりは」  
毎日新聞社  
東京新聞宇都宮支局  
下野新聞  
(株) 栃木よみうり  
株式会社とちぎテレビ  
宇都宮観光コンベンション協会

——— 広告・展示 ———

明 石 書 店  
岩崎学術出版社  
学 苑 社  
学 研  
風 間 書 房  
川 島 書 店  
北 大 路 書 房  
教 育 出 版  
金 剛 出 版  
ス ペ ー ス 96  
星 和 書 店  
東 京 書 籍  
中島映像教材出版  
日本文化科学社  
福 村 出 版  
北 樹 出 版  
明 治 図 書

(2010年7月 五十音順)

本大会を開催するにあたり、上記の団体より多大なご支援をいただきました。

ここに、御芳名を記し、感謝の意を表します。

2010年7月

日本自閉症スペクトラム学会第9回研究大会準備委員会

大会委員長 梅 永 雄 二